

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成30年度)

2. 分野別状況 (2)地域活性化総合特区 ⑤農林水産業分野(4/7)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
千年の草原の継承と創造的活用総合特区 (阿蘇市、南小国町、小国町、産山村、高森町、南阿蘇村、西原村、山都町)	3.6	4.2 進捗度 ・草原管理面積、野焼き再開牧野数 148% ・牛馬の放牧頭数 《定性的評価》 ・観光入り込み総数、阿蘇地域の宿泊客数 《定性的評価》 ・あか牛肉料理認定店数 95% ・草原体験利用者数 《定性的評価》	3.3 財政支援等 ・生物多様性保全推進交付金事業 地域独自の取組 ・ASO環境共生基金事業 ・入湯税収観光活用事業 等	3.5	<p>・観光客の回復など、地域に人々が戻ってきていることから今後の活動には期待が持てる。また、草原管理など自然保護の活動については順調であることがうかがえる。</p> <p>・「野焼き再開牧野(組合)数」については、高齢化が進む中で大変な取組だと思われるが、にもかかわらず1組合でも増加しているのは望ましい。牧野組合が野焼き実施に至らずというのは地震の影響だけでなく後継者不足等の要因もあるとのことだが、外部人材の確保等の工夫の余地はないか、検討いただきたい。</p> <p>・あか牛肉の評価が高まった一方で商品確保に課題が出てきたとのこと。これは放牧頭数の伸び悩みと同様、有畜農家の減少が背景にあらう。畜産業への新規参入には困難もあらうかと思うが、新規就農者確保に向けてさらに取り組んで頂きたい。</p> <p>・エコツーリズムを実現するために突破しなければならない規制が今後、出てくるのではないかとみている。</p> <p>・国の支援措置に係る財政・税制・金融支援、地域独自の取組は一定程度みることができる。</p>